



Walk with Children めぐる

大人 子供

せいび

223号

2026年5月

サレジアン国際学園目黒星美小学校

わたしの魂は主をあがめ、
わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。

身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。

(ルカによる福音 1章46~48節)

校長 シスター小島 理恵

カトリック教会では、聖母マリア様を称える5月を「聖母月」としています。子ども達が好きな聖歌の中に「マリアの賛歌」があります。上記のルカ福音書の箇所が歌詞になっていますが、この箇所は、親戚のエリザベトが懐妊したことを知ったマリア様が、時を移さず手を貸すために出発し、エリザベトとあいさつを交わした際に発せられた言葉です。マリア様は、旧約聖書のIサムエル記2章にある「ハンナの祈り」を引用して語っていますが、そこには、神への信頼、謙虚さが表れています。

私たちは、時折、神様は本当におられるのだろうか、と思わざるを得ない現実を目の前に突き付けられることがあります。今、世界で起きている戦争についても同じです。平和を祈っても一向に収束には向かわない…小さな子ども達が、恐怖の中で生活している…幼い命が失われる…家や財産のすべてを失う多くの方々がいる…神様は本当にいるのだろうか。しかし、だからこそ、皆で心を一つにし、ますます熱心に祈り続けることが大切です。マリア様は、神様に祈りを取り次いでくださる力強いお方であることに希望をおき、この5月、特に世界の平和のために祈りを捧げて参りましょう。



ドメニコ・サヴィオの記念 マリア・マザレロのお祝い 聖母祭

宗教部

聖母マリア様を称える5月には、ドン・ボスコの学校で育った聖ドメニコ・サヴィオ、ドン・ボスコによって創立されたサレジアン・シスターズの共創立者であり、最初のシスターの一人である聖女マリア・マザレロのお祝いと扶助者聖母の祭日（聖母祭）があります。

毎年6年生が朝礼の時間を使って、ドメニコ・サヴィオとマリア・マザレロについて紹介します。6年生が数あるエピソードの中から選んだのは、ドメニコ・サヴィオが悪者になっても友達をかばう姿と聖人になるために苦行をしていた時に、ドン・ボスコが教えた「苦行を行うよりも、神様がお望みになることを、明るい笑顔で気持ちよく行うこと」のメッセージ、そして、病に侵されることを覚悟しながらもチフスに罹った親戚の世話をするマリア・マザレロと、「一針一針を神様への愛のために」と子どもたちに裁縫を教えていたことです。

子どもたちにとって「模範」「憧れ」「理想」となる聖人や大人の存在は、とても影響力のあるものです。たくさんの人と出会い、価値観を知り、その中で自分を形作っていく子どもたちにとって大切な一助となれはと思います。

そして、私たち大人も、その「ひとり」なのだという意識を新たにして過ごしていきたいと思ひます。

2年生の声

2年生になって

2年生

わたしは2年生になりました。しぎょうしきの日、どのおともだちとおなじクラスになるのか、わくわくしていました。

きょうしつにむかうろう下には1年生のときにつくったおにのおめんがかざってありました。なつかしいなと思いました。

教しつにつくとなかよしのともだちがたくさんいました。もう2年生になったんだなとおもいました。おともだちとなかよくあそびたいです。1年生をみると、1年まえにわたしも6年生のペアといっしょにたくをしたり、本を読んだりしたことをおもい出しました。わたしも1年生にやさしくしてあげたいと思います。1年間楽しく過ごせると嬉しいです。



4年生の声

4年生になって

4年生

ぼくが4年生で楽しみにしていることは2つあります。1つ目はクラブ活動です。入りたかった少林寺拳法クラブに入ることができたので、友達と練習する日が楽しみです。2つ目は志賀高原の合宿です。合宿ではハイキングをするのを楽しみました。仲の良い友達や先生といっしょに歩くのが楽しみです。他にも、課外活動や英語朗読劇、カトリック音楽会、運動会などたくさんの楽しいことがあります。どんな時でも、みんなで協力して、この1年間をすごしていきたいです。



6年生の声

1年生のお世話

6年生

僕は6年生になって、1年生のお世話をする事が少し楽しみでした。しかし、入学式で一年生に最初に名札を付ける事を忘れてしまい、「1年生にかっこいいところを見せたい。」と改めて思いました。

数日後、僕が少し遅れて一年生の教室に行くと、僕のペアの子が前の日に教えたことを全てやっていました。僕が一年生だったらこのようなことができないので、びっくりしました。

さらにその数日後、再び少し遅れてしまう事がありました。すると、テレビに書いてあることを自分で見ながらやっていました。このような一年生を見たことがありませんでした。僕のペアは少し大人しい子で、最初は僕も緊張して、質問もあまりできませんでしたが、何日が経って、少しずつ話せるようになってきました。これからもお世話を頑張りたいです。



保護者の声

桜の花びらが春風に揺れる中、娘がサレジアン国際学園目黒星美小学校の門をくぐりました。

やがてやさしい雨が静かに降り始めましたが、先生が「曇り空は心を落ち着かせるものです」とおっしゃっていたとおり、子どもたちは皆、穏やかな面持ちで式に臨んでおりました。

入学式では、ジュニア・オーケストラクラブによる歓迎の調べに包まれる中、嬉しそうに入場する新入生の姿に、自然と微笑みがこぼれました。校長先生の愛情あふれるお言葉に親としての気持ちも新たに、在校生代表の歓迎の言葉や六年生の合唱に心を動かされ、これからの六年間に思いを馳せるひとときになりました。また、対面式では、せいびの子として迎えていただき、子どもたちが大きな愛に包まれていることに感謝しております。

入学当初は不安で涙を流したこともありましたが、今では自宅のカレンダーを見ては、毎日の学校を楽しみにしている娘の姿に、成長を感じております。これまで手をつなぎ、隣で歩いていた娘が、自らの足で歩み始めた姿に頼もしさを感じております。愛情深く寄り添ってくださる先生や優しいお友達に囲まれながら、思いやりの心を大切に、笑顔に満ちた日々を重ねていけるよう、親としてその歩みをあたたかく見守ってまいりたいと思います。

1年生 保護者